会　　議　　録

|  |  |
| --- | --- |
| 会議の名称 | 令和３年度　第３回協働推進懇話会 |
| 開催日時 | 令和４年２月１日（火）１４：００～１６：００ |
| 開催場所 | Zｏｏｍオンライン会議 |
| 出席者 | 《委員》　　　　　　◎会長　〇副会長■学識経験者〇粉川　一郎（武蔵大学社会学部メディア社会学科　教授）■市民団体を代表する者◎森田　圭子　（NPO法人わこう子育てネットワーク　代表理事）山川　由美子（NPO法人みんなで元気　代表理事）■公共的団体を代表する者加山　秀夫　（和光市自治会連合会）冨岡　俊宏　（和光市商工会）塚本　拓　　（和光市社会福祉協議会）片山　義久　（和光市ＰＴＡ・保護者会連合会）■和光市協働推進ワーキング安井　翠　　（和光市政策課）《事務局》市民活動推進課　野中、林、町村、橘 |
| 欠席者 | 《委員》■和光市協働推進庁内調整委員会中川　大　　（和光市政策課） |
| 次第 | １　テーマ『気軽に集まることのできる企画・仕組み・スペース　～まずはみんながつながろう～』に対する具体案について２　その他 |
| 会議資料 | １　次第２　前回投票結果３　中川委員　提供資料（別紙１）４　山川委員　提供資料（別紙２）５　加山委員　提供資料（別紙３）６　冨岡委員　提供資料（別紙４） |
| 傍聴者 | ０名 |

|  |
| --- |
| 会議内容 |
| 《会長挨拶》（森田会長）　今までアイデアを出し合い、実現可能なものになるよう、活発に意見交換を行ってきた。皆を巻き込むにはどうしたら良いか、懸念事項等も率直に話し合っていきたい。《１　テーマ『気軽に集まることのできる企画・仕組み・スペース　～まずはみんながつながろう～』に対する具体案について》〈森田会長進行〉　前回の投票結果を再確認。（前回投票結果参照）（森田会長）　前回粉川副会長から講評をいただいたが、協働推進懇話会内での議論であり、行政が絡むことで円滑に進められ、活かせる企画を考えていきたい。共有ツールとして委員より路地のデータ等を提供いただいている。①中川委員・５か所データ提供（別紙１参照）・共通していることは、車両開放をしていなかったり、歩行者専用道路や車通りが少ない等、路地の活用がしやすいこと。②山川委員・1か所データ提供（別紙２参照）・車の通りが少なく、公園の外周を回れるため、一か所通行止めをしても問題なさそう。・公園を含めて活用できると様々な世代と交流ができるのではないか。・地区社協や、隣接する障がい者、高齢者グループホーム、高齢者専用住宅、大和中学校、第3小学校を巻き込み、公園使用は市役所と連携してはどうか。施設ケアマネージャー等にも顔を出してもらう。・今まで地域に関わってこなかった人を無理なく巻き込みたい。テレワーク等で自宅にいる方々の足を止めてもらうきっかけになれば良い。・お気軽講座や消防士による防災教室、読み聞かせ等を実施。・あまり大げさにせず、小規模でスタートし「ちょっと良いよねこの街」と思えるようになれば良い。（森田会長）付近に「FILMS和光」という住民用の映画館や、単身者用社宅、ファミリー向けマンション等もあり、若い世代ともつながると面白いのではないか。（塚本委員）　自身の路地のイメージは、イベント化せず、なんとなく路地を使うイメージだが、どういう路地の使い方が良いか考えるのが良いのではないか。西大和団地では四割が高齢者、うち半分単身世帯であり、巻き込めると良い。（森田会長）　今の時代だと自然発生は難しく仕掛けが必要ではないか。いつも暮らしている人が出入りするのが良い。（山川）　初めのうちは仕掛け、それが自然発生的に続いて行くと良い。（塚本）　前回様々な場所で路地遊びを開催する案が出ていたが、初めは何箇所か路地遊びを計画し、その後は突発的に開催されると面白い。（森田会長）　地区社協や自治会と連携し、路地開放をしたら良いのではないか。（塚本委員）　「路地 of 和光」として、クリーンオブ和光と連携して行ったら良いのではないか。③加山委員・４か所データ提供（別紙３参照）・安全に使用できそうなところや、広く、普段ほとんど使用されていないところ。・公共施設を有効活用したら良いと考えるが予約制限等あるため、使いやすくしてほしい。・つながりで必要なことは集まることであり、集まることのできるスペースの確保を最優先に考えることが重要ではないか。（森田会長）　路地遊びは元々子供たちが寄って遊ぶイメージの言葉。子供たちにとっては遊びは毎日のことだから、そこに大人が集まっていくイメージ。暮らしの中にある皆の路地を選ぶことがポイントではないか。（片山委員）　自然発生的なものか、イベント的なものにするか。イベント的なものにした場合、今後子供たちが遊ぶことを考えると、普段の車通り等を判断できずそのまま遊んで事故が発生する可能性があるため、車が通らないところが良いのではないか。　HONDAから駅へ抜ける道は普段車通りも少なく、園児の散歩コースにもなっている。子供たちの遊びがイメージ。駄菓子屋や、紙芝居等大人が仕掛け、子供たちだけでできる遊びも教えながら、普段子供たちだけでも遊べるようなものが良いのではないか。（冨岡委員）　『ROJI ULABO』（別紙４参照）。子供向けだと高齢者の参加が促せない。子供が遊んでいれば大人が出てくるということはない。せっかく行うなら単発イベントではなく長期的に行うことが好ましい。『LABO』=研究。和光市から発信できたら面白い。公式ＳＮＳアカウントを作成し、路地を開放し遊歩道にすることを運営の仕事にすると良い。路地裏利用の交渉は自治会連合会を通し、各自治会と交渉することにより自治会の方々との交流が生まれるのではないか。路地裏は各地域ごと住んでいる人々と相談し、地域の方々がチョークを用意したり、バドミントン等遊び道具を用意すると、地域の人々も巻き込めて面白いのではないか。Facebookの『わこうちゃんねる』が活発に利用されているが、情報を知っている人たちが友人を誘って来られるような告知方法にし、徐々に広めていく。運営スタッフは自分たちではなく、このイメージを共有し、共感してくれた人が運営。運営としての基地局が必要ではないか。運営事務局は無償ではなく、例えば月１０万円×二人程度の稼ぎができると、運営スタッフも疲弊せず持続的に運営が可能ではないか。和光市の社会現象となれば良いと考える。（森田会長）　路地裏を開放していく事業が仕事で、何をするかは地域に任せるという点が面白い。事務局がいて、無償ではなく交渉等担っていくことが必要ということが挙がった。無償ボランティアのみだと中々続かないのは同意見である。（粉川副会長）　路地に拘ることは重要。ちょっとした広場ではなく道であることが大事。道を占有して遊んだり、使用したりすることは非日常感があり、自治体単位であると面白い。気楽にいつでもというわけにはいかず、制限をした日程での仕掛け作りが必要である。子供の遊び場に拘らないほうが良い。対象世代は、新型コロナウイルスの影響もあり、外に出る機会が無くなった高齢者や若者等に設定し、ふらっと来れるようなものにし、否応に子供がいつの間にか遊びに来るものが良い。冨岡委員の話を聞き、コンセプトがしっくりきた。各地域でムーブメントを起こすための土台づくりを行う事が大事で、行政が入る意味は土台づくりにある。行政が絡むと警察や自治会等への働きかけにおいても話が進みやすくなる。また広報紙でも広告を打つことができる。協働提案制度が続いていれば補助の制度が使用できたため、無くなったことは残念である。（森田会長）　プロセスを作らないと単発で終わってしまうため、プロセスづくりが大事。路地を開放し、住んでいる人が集える場所を作っていき、乗り気になっていくことで仲間が増え、つながる。地域の高齢者が地域で歩いて行ける範囲であると良い。（塚本委員）　たまたま和光市に住んでいる人たちは、おしゃれなマルシェのようなものだと同じ内容なら都会に出ていく。路地はマイナー。地域の方対象で、地域の人たちで作っていくことが面白い。小学校９区でエリアにより内容も異なってくるのではないか。ルールは最低限必要だが、広がりは地域に任せるのが面白い。（加山委員）　昔の路地は仲間が増え面白かったが、背景として昔は学校から帰宅後、何もすることがなかった。現在の子供は時間も余裕もなく忙しい。自治会としては、騒音問題や狭い場所で行うことに対する大人の声が少なくなれば実現不可能ではないと思う。（森田会長）　プレーパーク等でも子供たちが忙しいのは実感する。中国では街角に卓球台が常時置いてあったり、イタリアでは椅子が置いてあったりして付近の高齢者が集まってくるが、日本ではあまり見られない風景である。堂々とうろうろする大人がいて、安全を確保できれば良いのではないか。これは地域福祉に通じるものであり、皆の役に立つことが認知されると、あって良かったとなるのではないか。先程も出たが、クリーンオブ和光と連携ができると良い。（加山委員）クリーンオブ和光は年に３回あるが、家族参加が多く、つながりができ、清掃だけではなく良い相乗効果がある。家庭、近所との絆を強めることに活用できる。（山川委員）　路地はつながる場所になる。昔と今では異なっていることもあるため、ルールに則り上手く路地を活用できるようにしていくことが必要である。（安井委員）　先程加山委員から情報提供されたマンションの周辺は子供たちがよく遊んでいる。子供の居場所という点で、大人が何か仕掛けると盛り上がるのではないか。（森田会長）　働く人や、家に引きこもっている人をどう巻き込むか。路地の面白さでつながる。今の路地とは何かを研究し、「ROJI ULABO」のようなおしゃれな名前で若い人を巻き込み、地域の人とつながる場所になると良い。（粉川副会長）　『路地のまち協議会』という組織があり、路地は街づくりにどう貢献するかという記載がある。埼玉県飯能市でも路地裏サミットを開催し、路地を通行止めにし昔遊び等を実施している。先行事例として参考にできるのではないか。（森田会長）　和光市は坂が多かったり車が入れないような路地も多い。「魅力を再発見する」というキーワードが街づくりになる。仕掛ける中で時々イベントとして行ったり、クリーンオブ和光と関連付けたりすると可能性が広がる。皆が集まれる場所が必要だと冨岡委員は言っていたが、バーチャルだけではなく、やはり場所が必要であるか。（冨岡委員）　路地のプロジェクトにしても、集まれる場所は重要である。また実際に路地のプロジェクトが稼働する際、市役所が運営事務局を担うのは反対。3年おきに部署異動も生じることで、今までにも計画がゼロになることがあった。また想いも途切れてしまう。行政は本来の業務である情報管理や許可を出すことにより関わることが望ましいのではないか。本気で運営するなら熱海にて地域の研究開発事業を手掛ける『オンたま』のように、会社を立ち上げることも検討すべきである。運営に関しては先程月10万円と言ったが、現実的ではないため、月５万円×二人の人件費で、週二日５～６時間で業務を行ったり相談できる場所があれば面白い。ボランティアで参加する人の支えになるため良いと考える。（森田会長）　長く継続し地域を耕していくようなものは、携わる人を大切にしていく事が必要で、それには場所と予算が必要である。資金がないため市民に行ってもらうというのは大変である。実現するには皆が使用でき、集まることのできる場所は大事である。前回ワークショップで挙がった、コーディネーターやコンシェルジェのような人がいて、継続的に働きかけていく役割があるのは実現するために重要かと考える。まとめとして、路地というキーワードで場所を通じ何をやりたいか、プラットフォームづくりが行政との協働においてできることではないか。条件づくりが重要であり、子供だけではなく上の世代も対象にする。また昔の路地とは違うことや、先行事例の話もあった。最後に委員から一言ずつ伺いたい。（加山委員）　結局のところスペースが大事。また公共施設を容易に使用できるようになると良い。（片山委員）　拠点が大切だという意見はあったが、駅の近く等、市民がいつでも使えるような拠点が必要。（塚本委員）　市役所の会議でプロジェクトの一歩前の段階で携われることが良い。路地ではなくても良いかもしれないが、市のどこかを使用し、つながっていけると良い。（冨岡委員）　ムーブメントを起こすにはどうすれば良いかと考え企画案を出した。活用できていない公共施設等の許可取りや、市民広場も容易に活用できるようになったら良いと思う。本日話したことが何かしら形になっていくと良い。（安井委員）　人がつながることは難しく、きっかけづくりや場所づくりが大事であると思う。（山川委員）　以前粉川副会長から大きい拠点と小さい拠点の話があったが、色々なアイデアを持った人たちが大きな拠点で話し合い、小さな場所でこういった具体策を話し合えたら良いと思う。動く前に皆でアイデアを持ち寄れるような大きな場所があると良い。（森田会長）　作戦を立てたり、情報交換が行えるような場所が必要で、その場づくりから共に考えたいという意見が挙がっていた。また協働の助成金はなくなったが、市民がゼロから立ち上がるときに、助成事業はあって良かった。（粉川副会長）　今年度から、より和光市の具体的な話にフォーカスできた最初のステップとして、良い議論であった。絵に描いた餅では終わらせたくない。今後、場所としての路地の話になるか、路地のイベントとしての話になるか、またはそういう議論をするための、市民が集まることのできる大きな場づくりなのかは検討すべきであるが、形になるように、今後和光市とも相談しながら前に進めていきたい。《２　その他》（事務局）□『市内のイベント集約サイト、使用可能な活動場所』について　　前回委員より意見のあった市内のイベント集約サイトについて、和光市ホームページのイベントカレンダーはあまり活用されていない。理由は①市民が直接イベント情報を掲載できない点、②市のイベント掲載は各担当課に任せており、結果カレンダーが活性化していない状況となっている点。掲載権限が職員に限定されている点は、市のホームページとして情報の信憑性の観点より制限を設けているとのこと。（秘書広報課に確認済）　　冨岡委員からも発言があったが、Facebookに『わこうちゃんねる』という市民が作っているページがあり、気軽に発信、PRでき、理想の形である。課題点はFacebookアカウントを所持していないと閲覧、情報発信ができない点、高齢者等にはハードルが高い点が挙げられる。市としても官民のイベント情報が集約されたものがあると、市内がより活性化できると考えており、自ら市民がイベント情報を掲載、PRできるようなものが良いと考えている。今後検討していきたい。以上　 |